

教材・支援機器活用実践事例

【役割を自覚し自主的に行動するための掲示物の工夫】

子どもについて	学校・学級	中学校 特別支援学級（自閉症・情緒障がい）
	対象の障がい	自閉症・情緒障がい
	授業形態	小集団学習
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> 学級内での役割を忘れてしまい、きちんと果たせないことが課題となっていた。 役割を果たすための手順や仕方などを明確にして見通しを持たせると共に仕事を終える度にカードを移動したり、裏返したりすることで自分自身で確認ができ、仕事忘れがなくなるようにしたい。 生徒同士で確認でき、仕事忘れがなくなり役割をきちんと果たせることで称賛につながり自己有用感を高めさせたい。
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	<p>① 「朝、登校したらやること」</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div> <p>② 「日直の仕事」</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div>
活用のねらい		<p>① 「朝、登校したらやること」</p> <p>登校後の提出物の提出や朝の係活動等を自分で意識して取り組むことができる。終わったら、ホワイトボードの右側に移動することで自分で確認ができる。</p> <p>② 「日直の仕事」</p> <p>帰りの学活終了後、カードを確認しながら日直の仕事を行うことができる。終わったら裏返しにすると「1日ご苦労様！」やイラストが表れ、楽しみながら忘れることなく確実に行動することができる。</p>
授業における支援 ・教材の配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> 活動が明確になるようカードの内容を精選した。 文字だけでなく、イラストや写真を取り入れることで視覚に訴え、分かりやすくした。
子どもの変容や評価		<ul style="list-style-type: none"> 手順や役割を明確にすることで、生徒が自分で見て気づき、活動を行えるようになり、責任感も育ってきた。 忘れていたときも担任からの「黒板確認だよ」の声かけで自分の活動に気づき今やるべきことに気づけるようになった。 自分だけでなく、お互いに次にやるべき活動を意識して取り組めるようになり、学級の中で「協力し合う関係」の土台づくりにもつながった。